

平成28年度スポーツ庁委託事業

子供の体向上課題対策プロジェクト

事業報告書

アスリートソサエティコンソーシアム

事業趣旨

子どもの体力は、一時期の低水準から戻りつつある一方で、運動をよくする子どもとしない子ども、運動嫌いなどのつまづきを感じている子ども等、運動習慣の二極化が進んでいます。その背景には、様々な要因が複雑に混在していると推察されますが、要因のひとつに、小学校での体育授業は、科目別専任教員ではないため、体育指導を得意とする教員とそうでない教員等、教員によって指導技量に差が生じることが推測されます。そこで、こうした問題の解決に向けて、元トップアスリートや大学等の関係団体との連携によって、小学校の体育活動を支援する取組みを実践しました。

《実践研究のテーマ》

アスリート先生(体育専任先生)の小学校体育指導支援がもたらす子供の体力向上効果について

《取組み内容》

★事業モデル小学校(中野区立若宮小学校 児童数401名)において、週に1回月4回の頻度で、アスリート先生(体育専任先生)を配置。アスリート先生は、担任教員等と適切な連携を図りながら体育の授業をT2として指導、サポートする他、休み時間、放課後等に児童の運動活動を支援した。

※取組み期間平成28年6月3日～平成29年2月23日(全30回)

《事業目標》

★4つの事業目標

- 1 運動が好きと答える児童の増加。(体育活動への意欲、満足度を高める)
- 2 運動活動の日常的な定着。1週間の総運動時間60分未満の児童の改善。
- 3 新体力測定全国平均値項目数の増加。
- 4 教員の体育指導における意識の向上と変容。

《アスリート先生実践方法》

- ・指導は理想的には、週1回の実施としていたが、事業モデル校である若宮小学校の年間行事等の日程や全学年クラスの指導受益頻度が平均になるよう等の配慮から月4回とした。
- ・若宮小学校の教員との連携、児童との関係づくりを考慮し、派遣するアスリート先生は、期間中、水泳授業を除いては、同一アスリートとした。夏季、水泳授業期間中は、水泳アスリートを派遣した。
- ・アスリート先生は、学校教員と同様の時間に出勤し、16時15分までの勤務とした。
- ・期間中、給食時間は、各学年、クラスで児童達と給食を共にすることに努め、授業、業間活動以外においても児童達とコミュニケーションを図ることとした。

《アスリート先生事業効果の検証、評価方法》

- ・若宮小学校全児童を対象に本事業検討委員によって構成された調査票を実践開始時期と終了時期に実施した。調査票は年齢的な理解度を考慮し1, 2, 3年(低学年用)、4, 5, 6年(高学年用)の2種とした。
- ・調査票の実施は、低学年は家庭に持ち帰り、回答してもらい後日回収。高学年は、学校内で実施し、回答してもらいその場で回収した。
- ・前後2回の回答結果から体育活動への意欲、満足度、意識の変容等を分析した。
- ・実践における効果の達成度を比較検証するため、統制群小学校1校に同様の調査票のみ協力してもらい、若宮小学校と同時期、同条件で実施した。

《児童用調査票について》

- ・運動に対する愛着、興味等の感情的価値、認知的価値等の心理側面を問う設問。
- ・運動に対する満足度、意欲等、運動動機等を問う設問。
- ・日常的な生活習慣を問う設問等。上記について、5択肢から1つ選択するよう回答を求めた。

《新体力測定効果の検証方法》

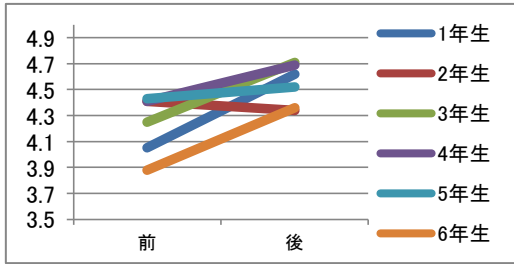
- ・実践終了時期に若宮小学校全3, 4, 5年生を対象に新体力測定3種(50m走、ソフトボール投げ、立ち幅跳び)を実施し、1学期に行われた新体力測定の数値と比較し、変化を検証した。

《アスリート先生に対する教員の評価と体育指導における教員の意識の変容》

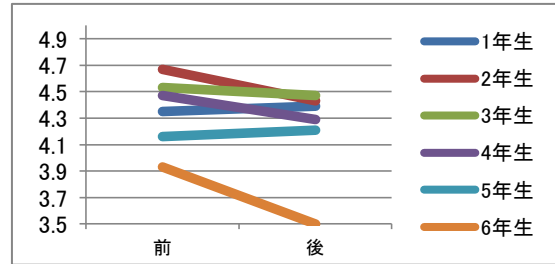
- ・本事業課程終了後に若宮小学校全学年全クラス担任を対象に調査票を実施した。
- ・設問は、アスリート先生の評価や学校配置についての感想、体育授業に対する教員自身の変容等について、5択肢から1つ選択。合せて、自由記述で回答してもらった。

《運動が好きと答える児童の結果》

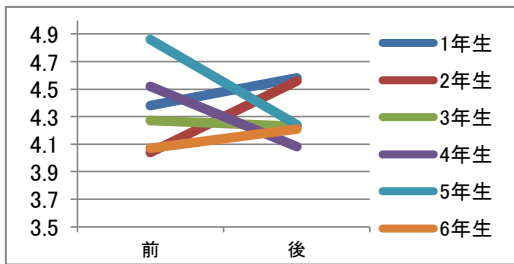
事業モデル校男児の変化



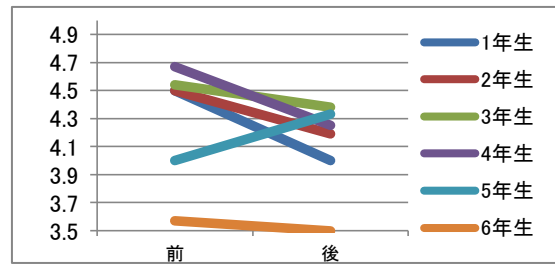
統制群校男児の変化



事業モデル校女児の変化

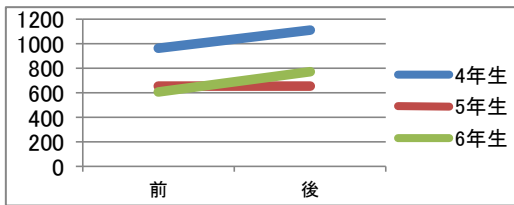


統制群校女児の変化

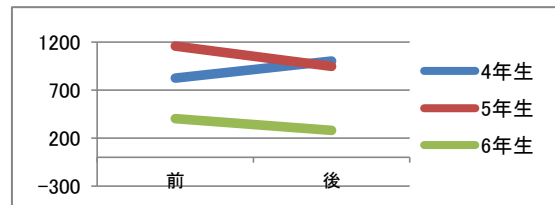


《1週間の総運動量の変化結果》

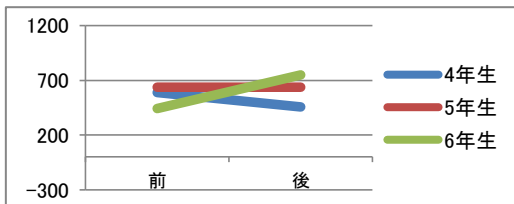
事業モデル校男児



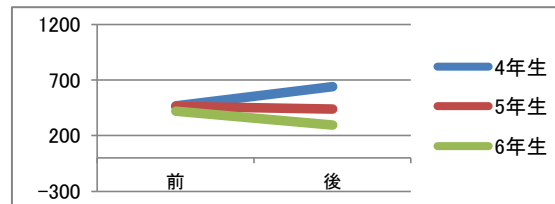
統制群校男児



事業モデル校女児

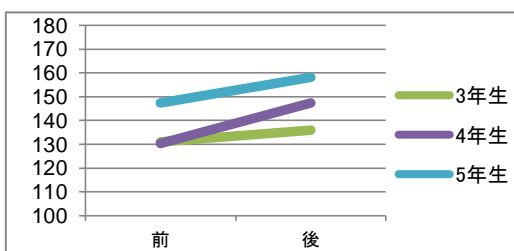


統制群校女児

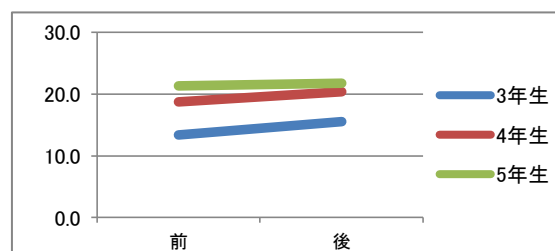


《事業モデル校新体力測定変化結果》

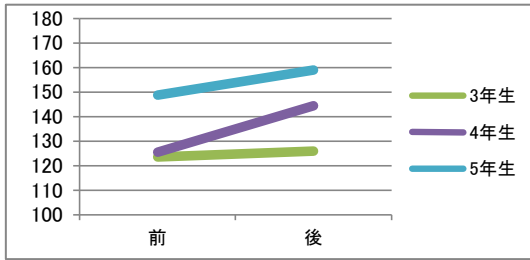
立ち幅跳び(男児)



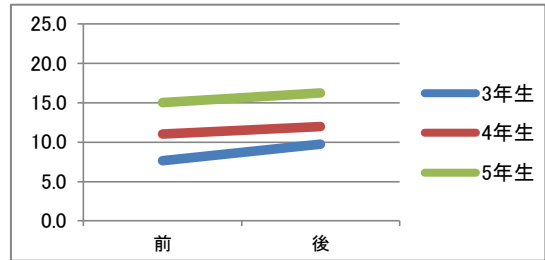
ソフトボール投げ(男児)



立ち幅跳び(女児)

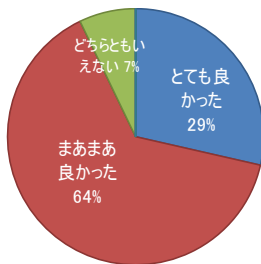


ソフトボール投げ(女児)

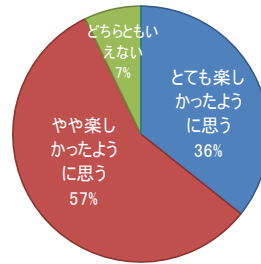


《アスリート先生に関する教員の評価》

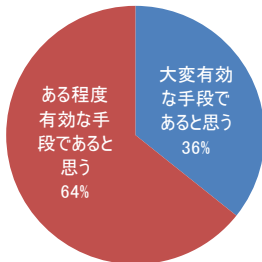
アスリート先生の取組みについて



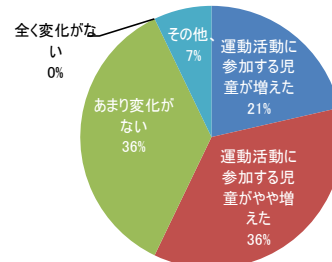
通常の体育授業よりアスリート先生の授業の方が楽しそう



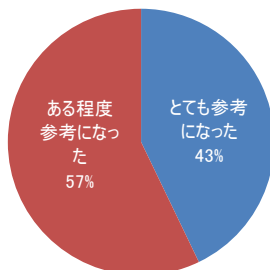
アスリート先生は児童の運動意識の向上に有効な手段である



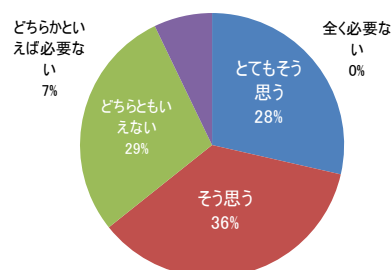
アスリート先生によって児童の日常的な体育活動に変化がみられましたか



アスリート先生の体育指導は自身の指導の参考になりましたか



小学校において体育専任先生(アスリート先生)は今後、必要であると思いますか



《アスリート先生授業の様子》

船場 大地（東京学芸大学卒、陸上男子十種競技選手、インターハイ 6 位、日本選手権出場）



前田 康輔（水泳）中央大学卒、日本選手権 200m 自由型リレー4 位、国民体育大会出場



《事業モデル若宮小学校校長先生の感想》

私見ではあるがとても良い事業だと思う。約1年間にわたり専門性をもった方が児童の育成にあたる機会に本校が協力できたことはとても良かったと実感している。アスリート先生は、長期実施の中で児童との間に良い関係性が生まれ、児童達はアスリート先生を慕い、給食を一緒に食べながらいろいろな事を質問していた。成果の面では、児童に寄り添って指導にあたっていたのでとても楽しいと感じていた児童が多数いた。また、専門性のある方の指導は、特に、高学年に技術の進歩がみられた。未熟な児童は、コツを教えてもらうことで出来るようになり、できる児童には発展性のある技を教えてもらう事で技術の進歩につながった。そして、専門性は教員育成にも役立ちました。

《さいごに》

実践モデル校の教員の評価から、アスリート先生による年間を通した体育授業支援は、高い評価を得たと実感しています。特に、技術面でお手本として児童に見せることによる効果は高いと判断する教員は多くみられました。約1年にわたる本取組みの実践で4つの事業目標課題に一定の成果を挙げることができたと実感しています。アスリート先生による体育支援は、高い技術のお手本を子ども達に披露することで従来の授業にはない演出が可能となり、その結果、児童の運動への関心や向上心を高めることに繋がったものと考えます。また、あらためて、子ども達にとって体育は、視覚から学ぶ要素が極めて高いことも実感しました。本事業は児童のみならず、学校関係者からの要望が高いことから、今後更に、本取組みの実施と改善を重ねて効果を検証し、その成果を全国に向けて発信、周知していくことが必要であると考えます。

《アスリートソサエティコンソーシアムについて》

本事業は、中野区教育委員会の協力の下、NPO 法人幼児教育従事者研究開発機構を中心に一般社団法人アスリートソサエティ(代表者 為末 大)、順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ心理学准教授川田裕次郎先生、そして、スポーツに関わる大学生等との協同で実践検証しました。本事業に際し、ご協力いただきました関係団体、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

《本事業についてのお問合せ等について》

NPO 法人幼児教育従事者研究開発機構

〒112-0013 東京都文京区音羽1-16-8

TEL:03-5940-5112

<http://www.npo-child.or.jp> ☒ support@npo-child.or.jp